

第10期大学分科会（令和元年6月13日 於：文部科学省）説明資料



# リーディング大学院の成果と キャリアパスへの影響

最先端研究の産業応用と教育分野への還元

学校法人名城大学 経営学部 助教

PhDプロフェッショナル登龍門 1期生

**新美 潤一郎**

jniimi@meijo-u.ac.jp

# 本日の内容

- － 略歴
- － プログラムの経験
- － キャリアへの影響
- － 大学院教育と研究環境

# 略歴

2009.04 – 2013.03 名古屋大学経済学部経済学科  
 2013.04 – 2015.03 名古屋大学大学院 経済学研究科 博士課程（前期課程）  
 2015.04 – 2018.03 名古屋大学大学院 経済学研究科 博士課程（後期課程）  
 2018.04 – 2019.03 理化学研究所 革新知能統合研究センター 特別研究員  
 2019.04 – 現在 学校法人名城大学 経営学部 経営学科 助教

期間	～2017年度		2018年度		2019年度
本務先	名古屋大学 経済学研究科 博士課程（後期）		理化学研究所 AIPセンター 特別研究員		名城大学 経営学部 助教
名古屋大学 プログラム	名古屋大学 博士課程教育リーディングプログラム PhDプロフェッショナル登龍門 履修生				名古屋大学 DII協働大学院プログラム 非常勤講師 マーケット調査実習
その他1		理研 AIP 研修生	慶應義塾大学 環境情報学部 非常勤講師 統計基礎		理化学研究所 AIPセンター 客員研究員（予定）
その他2			慶應義塾大学 産業研究所 共同研究員		

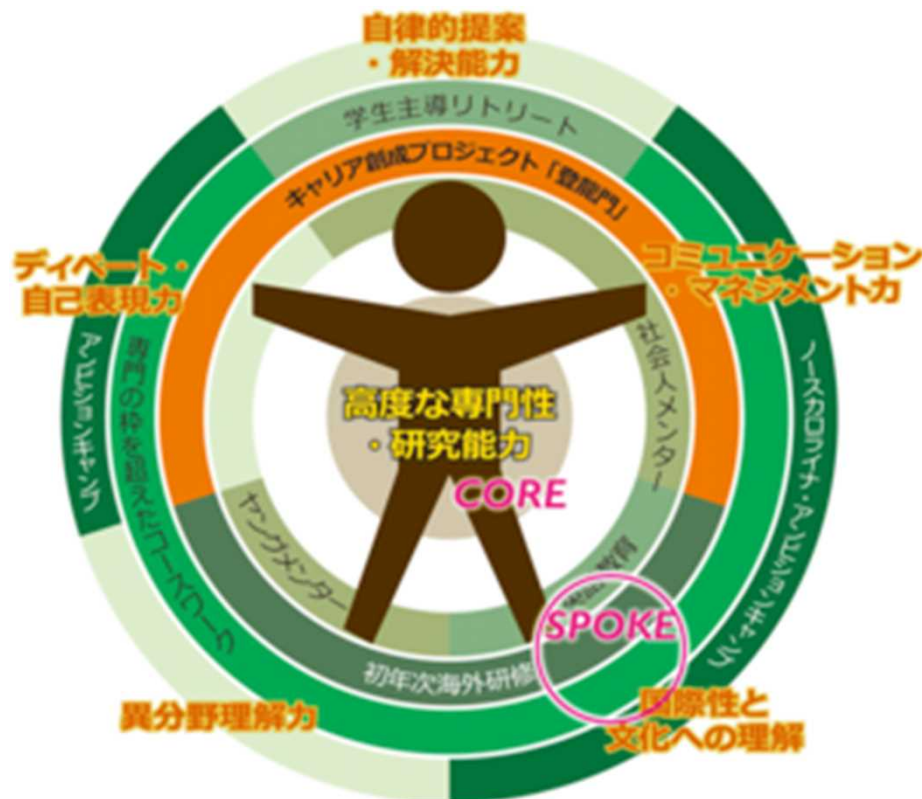


# リーディング大学院の志望動機

学際的な専門性の獲得に登龍門は不可欠

## 当初の参加目的

データサイエンスのための工学知識と異文化理解  
 →通常の大学院生活では得られない経験を志望



# 複数専攻の恩恵

理系分野における常識としての再現性

ヤングメンターシップ (1)

工学研究科 田中雅光 特任助教

- ー 実験ノートによる手続きの明確化
- ー ビッグデータ分析では対象・規模・行動などの条件で結果が大きく変化
  - 産業応用には再現性の担保が必須

# 複数専攻の恩恵

他領域から専門領域への学修の還元

ヤングメンターシップ (2)

高等研究院 多元数理科学 松本拓也 特任助教

ー 他領域のモデル (Boltzmann Machines) を  
経営系AIとして産業応用 [新美・星野, 2017]

→ 実際に企業内で提案手法を組み込んだ  
情報予測モデルのプロトタイプを作成、  
製品化や特許取得も視野に

# 産学連携の実績

社会人メンター（日本アイ・ビー・エム株式会社）



- － AI等最先端トピックの学習機会の提供と  
実務家交流による社会的なニーズの把握
- － 米国本社、研究所の訪問・研修  
IBM Thomas J. Watson Research Center



# 海外研修

現地学生・研究者との交流



登龍門プロジェクト  
North Western University (米イリノイ州)

- ー 位置情報など社会的関心は高いが利活用が進んでいないデータを活用した研究
- ー 独自のクラウドデータ分析システムの開発 (打倒IBMと称してデモンストレーション)

# プログラムの恩恵

全ては学習機会に集約

## 研究科に籠ってでは得られない学習機会

- － 複数専門（情報工学への深い知見）
  - － 海外経験（言語と異分野理解）
  - － 異なる専門領域の院生との日常的な議論  
（留学生との5年間のシェアハウス生活）
- いずれも視野を広げる素晴らしい試み  
深い相互理解には長い期間と拘束力が必要



# 修了後のキャリア（1）

社会への価値提供としての研究

2018.04 – 2019.03 :

理化学研究所 革新知能統合研究センター 特別研究員

## 理研入所の想定：

データ利活用による社会への幅広い価値提供のためには**1企業への所属はむしろ動きを鈍化**

（経済学を主分野とする博士人材の入所は**理研初**）

## 研究活動に加えて下記の業務を担当：

チーム内のクラウド情報システムの設計・運用 / 人事（留学生面接担当） / 事務局・渉外担当 / 学会運営委員2件 / 調査設計

# 修了後のキャリア（2）

社会への価値提供としての教育

2019.04 – 現在：

学校法人 名城大学 経営学部 助教

現在の目的：

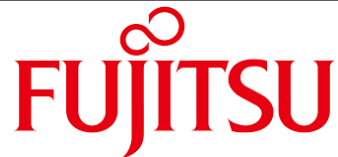
- 文系出身のデータ分析・AI人材として教育への還元
- 学生の萎縮（AIが雇用を奪う？）は社会に負の影響
- 統計学と実データを用いた人材育成
- 名大等でより高度なデータ分析実習
- 企業人へのデータ活用・AI理解の浸透

# 主な連携機関（予定含む）

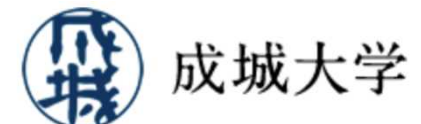
今後の試みとして

多くの機関に研究/教育の両面での  
連携に合意いただいている

## 一般企業



## 大学/研究機関



# 連携の例

- － 経営学と情報学（あるいは学問分野と実務）  
双方の人材として共同研究、講演等の依頼

2019/8/22 富士通フォーラム名古屋2019登壇

（講演に加えてトヨタ自動車データ利活用部門との  
パネルディスカッションを予定）

- － 社会人を対象としたAIセミナーの開催

データアナリストに限らない一般の方が対象

AIへの社会不安の解消や理解促進を目的に

# プログラム関係の取り組み

継続的な情報共有のための枠組み

- 専門領域を限定しない幅広い博士人材の情報共有・議論のための強固なネットワーク



自身の専門分野の最新トピックのレビューを共有、  
また業務上の課題について議論する試み





# 大学院教育と研究環境

# 博士人材と大学院プログラム

就職活動の経験から振り返る



## オールラウンド型ではT型人材を育成

- － 博士取得者が**T型人材**であるのは大前提
  - 複数専攻性や国際性に利点

## 博士人材を採用する想定として

- － 研究内容が**職務に直結**することは稀
- － 研究活動の中で培った能力に期待
  - ポテンシャル採用といえる

# ありがとうございました



## 新美 潤一郎

jniimi@meijo-u.ac.jp

学校法人名城大学 経営学部 助教

PhDプロフェッショナル登龍門 1期生

## 役員・委員等の遍歴

- ・ 理研 情シス担当（クラウドデータ分析環境の構築 / 運用）
- ・ 理研 共同研究事務局（チーム渉外担当）
- ・ 理研 外国人面接担当
- ・ 日本行動計量学会 大会実行委員会
- ・ 行動経済学会 大会実行委員会
- ・ 名古屋マーケティングインカレ運営委員会